

巻末資料 4. 技能系科目シラバス・ルーブリック

**技能系科目シラバス**

**【日本語文法シラバス】**

到達目標	<p>1. 基礎的な文法知識を身につける。</p> <p>2. 自身の日本語使用における文法的正誤を判断し、修正することができる。</p> <p>3. 文法知識を実用的な文章の中で、適切かつ正確に使うことができる。</p> <p>4. 課題の提出に関して、自己管理することができる。</p>
回数	内容
1	オリエンテーション 実力確認作文
2	助詞
3	【小テスト1】 文頭と文末の呼応
4	【小テスト2】 て形と否定形
5	【小テスト3】 助詞「が」・「は」
6	【小テスト4】 名詞修飾
7	【小テスト5】 自動詞・他動詞
8	【小テスト6】 受身
9	【小テスト7】 使役・使役受身
10	【小テスト8】 授受表現
11	【小テスト9】 目的・可能・願望
12	【小テスト10】 結果・状態(る形・た形・ている形・ていた形)
13	【小テスト11】 「のだ」文の使い方
14	【小テスト12】 まとめの作文の執筆と推敲
15	まとめのテスト 授業振り返り

【日本語文法ルーブリック】

	評価基準				
	S 期待している 以上である	A 十分に 満足できる	B やや 努力を要する	C 努力を要する	D 相当の 努力を要する
①文法知識	基礎的な文法知識を正確に理解している。	基礎的な文法知識をほぼ正確に理解している。	基礎的な文法知識をある程度正確に理解している。	基礎的な文法知識があまり理解できていない。	基礎的な文法知識が全く理解できていない。
②文法知識の活用	文法的知識を活用し、正確な文章を書くことができる。	文法的知識を活用し、ほぼ正確な文章を書くことができる。	文法的知識を活用し、ある程度正確な文章を書くことができる。	文法的知識を活用することが難しく、正確な文章を書くことも難しい。	文法的知識が理解できておらず、正確な文章を書くことができない。
③自己推敲	自分が書いた文章の不適切な部分に気づき、適切に修正することができる。	自分が書いた文章の不適切な部分にある程度自分自身で気づくことができる。また、適切に修正することができる。	他者の支援を受けつつ、自分が書いた文章の不適切な部分に気づくことができる。また、ある程度適切に修正することができる。	他者の支援を受ければ、自分が書いた文章の不適切な部分に気づくことができる。また、他者の支援を受けても、修正することが難しい。	他者の支援を受けても、自分が書いた文章の不適切な部分に気づくことができる。また、他者の支援を受けても、修正することができない。
④自己管理	教師の指示を正確に把握したうえで、教師の指示にもとづき、授業で課されたすべての課題を締切を守って提出することができる。	教師の指示をほぼ正確に把握したうえで、教師の指示にもとづき、授業で課されたほとんどの課題を締切を守って提出することができる。	教師の指示を概ね把握したうえで、教師の指示にもとづき、授業で課された課題の多くを締切を守って提出することができる。	教師の指示を部分的に把握したうえで、教師の指示にもとづき、授業で課された課題の半数以上を締切を守って提出することができる。	教師の指示が把握できないため、教師の指示にもとづき、授業で課された課題を締切を守って提出することができない。

到達目標

合格ライン

## 【日本語コミュニケーションシラバス】

到達目標	<p>1. 教師やクラスメイトの発話を正確に理解し、適切に対応できる。</p> <p>2. 発表やディスカッションで使う表現を身につけ、実際に使うことができる。</p> <p>3. 大学生活において多様な人々と適切なスタイルを用いて文章および口頭でやりとりすることができる。</p> <p>4. 発話上の問題を特定し、修正することができる。</p>
回数	内容
1	オリエンテーション
2	初対面の人と会う 発音①母音と子音
3	講義に出席する 発音②日本語のリズム
4	相談する 発音③スラッシュリーディング
5	1分スピーチ導入 OJAD 紹介・練習 質問の仕方の練習 スピーチの練習
6	スピーチ発表 質疑応答 書類を書く
7	メール①メールの書き方／メールで依頼する 発音④名詞と形容詞のアクセント
8	前半のまとめ: 会話テスト1／ふりかえり
9	手伝いを申し出る 発音⑤動詞のアクセント
10	友人を誘う 誘われた時に対応する LINE コミュニケーション
11	お詫び 発音⑥文末イントネーション
12	お礼 メール②お礼状
13	ディスカッション
14	後半のまとめ: 会話テスト2／ふりかえり
15	まとめテスト 授業ふりかえり

【日本語コミュニケーションルーブリック】

	評価基準				
	S 期待している 以上である	A 十分に 満足できる	B やや 努力を要する	C 努力を要する	D 相当の 努力を要する
1) 反応力 (聴く・話す・ 行動する)	教師やクラスメイトの発話を正確に理解し、適切に対応できる。	教師やクラスメイトの発話をほぼ正確に理解し、ほぼ適切に対応できる。	教師やクラスメイトの発話がある程度理解し、ある程度対応できる。	教師やクラスメイトの発話をかろうじて理解し、かろうじて対応できる。	教師やクラスメイトの発話を理解できず、対応することができない。
2) 表現力 (話す)	発表やディスカッションの基礎を身につけ、実際に使うことが全く問題なくできる。	発表やディスカッションの基礎をほぼ身につけ、実際に使うことがほぼ問題なくできる。	発表やディスカッションの基礎をある程度身につけ、実際に使うことがある程度できる。	発表やディスカッションの基礎を最低限身につけ、実際に使うことが最低限できる。	発表やディスカッションの基礎を身につけておらず、実際に使うことができない。
3) 表現力 (やりとり)	大学生活において、相手に応じて適切な待遇表現や文法、語彙、発音を用いてやりとりをすることが全く問題なくできる。	大学生活において、相手に応じた待遇表現や適切な文法、語彙、発音を用いてやりとりをすることがほぼ問題なくできる。	大学生活において、相手に応じた待遇表現や適切な文法、語彙、発音を用いてやりとりをすることがある程度できる。	大学生活において、相手に応じた待遇表現や適切な文法、語彙、発音を用いてやりとりをすることがかろうじてできる。	大学生活において、相手に応じた待遇表現は選べず、文法、語彙、発音も間違いが多く、相手に伝わらない。
4) モニター力	発話上の問題を自分で特定し、自力で修正することができる。	発話上の問題をほぼ自分で特定し、ほぼ自力で修正することができる。	発話上の問題をある程度自分で特定し、ある程度修正することができる。	発話上の問題を指摘されれば特定でき、最低限の範囲で修正することができる。	発話上の問題を指摘されても理解できず、修正することもできない。

到達目標

合格ライン

## 【日本語語彙シラバス】

到達目標	1.知らない語にであったとき、その語の読み方・発音・意味を調べ、習得することができる。 2.活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法を理解することができる。 3.活動の中で学んだ語を使用して、やりとりすることができる。
回数	内容
1	1.オリエンテーション／基礎語彙の学び方について考える
2	ニュース テーマ①／語彙練習 L1
3	【小テストL1】 ニュース テーマ②／語彙練習 L2
4	【小テストL2】 ニュース テーマ③／語彙練習 L3
5	【小テストL3】 ニュース テーマ④／語彙練習 L4
6	【小テストL4】 プレゼンテーション／語彙練習 L5
7	【小テストL5】 プレゼンテーション／語彙練習 L6
8	【小テストL6】 社会問題について知る活動／語彙練習 L7
9	【小テストL7】 ニュース テーマ⑤／語彙練習 L8
10	【小テストL8】 ニュース テーマ⑥／語彙練習 L9
11	【小テストL9】 ニュース テーマ⑦／語彙練習 L10
12	【小テストL10】 プレゼンテーション／語彙練習 L11
13	【小テストL11】 プレゼンテーション
14	まとめのテスト／社会の問題を考える活動
15	授業ふりかえり

【日本語語彙ルーブリック】

	評価基準				
	S 期待している 以上である	A 十分に 満足できる	B やや 努力を要する	C 努力を要する	D 相当の 努力を要する
①学習能力	よく調べており、語の読み方・発音・意味も正確に覚えている。	よく調べおり、語の読み方・発音・意味をほぼ正確に覚えている。	よく調べており、語の読み方・発音・意味もある程度正確に覚えている。	十分には調べておらず、語の読み方・発音・意味も正解には覚えていない。	ほとんど調べてもおらず、語の読み方・発音・意味もまったく覚えていない。
②理解力	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法を正確に理解することができる。	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法をほぼ正確に理解することができる。	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法をある程度理解することができる。	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法をある程度理解しているが、不正確である。	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法を理解できない。
③産出力	調べたことや自分の考えを伝える際に、語をその文脈にあわせて適切に使用することができる。	調べたことや自分の考えを伝える際に、語を文脈にあわせてほぼ適切に使用することができる。	調べたことや自分の考えを伝える際に、学習ツールなどのリソースを援用しながら、語を文脈にあわせてある程度適切に使用することができる。	調べたことや自分の考えを伝える際に、学習ツールなどのリソースを援用しながら、語を使用する文脈を意識してはいるが、適切に使用することが難しい。	調べたことや自分の考えを伝える際に、語を使用する文脈が意識されておらず、学習ツールなどのリソースを援用しても、適切に使用できない。

到達目標

合格ライン